

乳幼児用ベッド基準案 赤字：改正(案)

項目	SG 技術基準	基準確認方法
適用対象	主として家庭において <u>身長 90 cm未満¹</u> （概ね出生後24月以内）の乳幼児の睡眠又は保育に使用することを目的として設計したものに限るものとする。 <u>ただし、概ね出生後5月以内の乳児のみが使用することを目的とした製品及び揺動型は除く。</u> <u>（身長要件の明記及び低月齢乳児専用ベッドの除外）</u>	（参考） ASTM:710 mm×1330 mmの乳幼児用ベッド。対象は身長89cm 未満
要件	1 手足を傷つけるおそれのある割れ、ばり、まくれ、ささくれ等がないこと。 2 （1）各部は、ゆめを生じないよう確実に組み立てることができること。	乳幼児の手足が届く範囲に突起やエッジがない。 木製部分については表面が滑らかでささくれ等がない。 組立を行い、目視等により確認する。 <u>使用者が組み立てる部分に木ねじは使用しない。</u> （参考） ASTM： ・使用者が組み立てる部分に木ネジは認めない。 ・ネジ山を作るための金属インサートは脱落防止措置が必要。 ・フィンガージョイントのような横方向の継ぎ目がない。 ・金属部品での固定は緩み防止措置が必要。 EN：木ねじは使用しない。

¹ 90 cmを超える乳幼児を対象とするものについては別途検討。

	(2) 可動部分は、円滑かつ確実に操作することができるものであること。 3 床板は、使用時に容易にはずれないよう確実に取り付けることができる構造を有すること。 4 前枠が開閉式又はスライド式のものにあっては、乳幼児が容易にその前枠を開き、又は下げることができない構造を有すること。 5 キャスターを有するものにあっては、可動防止のための措置が講じられていること。	操作等により確認。 組立後ベッドの上さんをもってベッドを数回揺り動かして確認する。 (参考) ASTM、EN:強度試験終了後に外れない(本規定単独の基準はない)。 構造・装置の例示として挙げられている、ラッチ式、ねじ式に<u>ダブルアクション、操作力を追加。</u> <u>前枠を閉じた状態、又は上げた状態で自動的にロックがかかること。</u> (参考) ASTM、EN:乳幼児が容易に操作できない構造(ダブルアクション or 操作力) ASTM、EN:前枠を閉じた状態、又は上げた状態で自動的にロックがかかる構造 可動防止装置を2個以上有していること。 (参考) EN:可動防止装置を2個以上有していること。
--	---	---

	6 窒息のおそれがある小部品がないこと。 あるいは、小部品が外れないこと。 7 乳幼児が容易に柵を乗り越えて落下することがない構造及び転落につながる足がかりがない構造を有すること。 (書きぶり変更) (1) 床板最低位の側面高さ (2) 床板最高位の側面高さ	アクセサリの取付強度は 147.1N 以上<u>又はトルク試験及び引っ張り試験で外れないことを確認し、外れた場合には小部品シリンダに入らない。</u> (参考) ASTM、EN：トルク試験及び引っ張り試験で外れないことを確認し、外れた場合には小部品シリンダに入らない。 床板から 60 cm以上 (参考) ASTM:床板から 66 cm以上。(可動部分の上端は床板最低位から 51 cm以上) EN:マットレス上面から 50 cm以上 (マットレス別売りの場合は 60cm) 床板から 35 cm以上→<u>マットレス上面から 20 cm以上</u> (参考) ASTM:床板から 22.8 cm以上 EN:マットレス上面から 20 cm以上 (マットレス別売りの場合は 30 cm)
--	---	---

	(3) 足がかりがない範囲 8 乳幼児の頭が組子間等に挟まれにくい構造を有すること。<u>(頭を胴体に変える)</u> 9 乳幼児の頭部が枠とマットレスの間に挟まれにくい構造を有すること。	床板から 30 cm以上の高さまで足がかりがなく、かつ、側壁は足がかりから 54cm 以上の高さ。→<u>マットレス上面から 35 cmまでの高さまで足がかりがない・・・。</u> (参考) ASTM:床板最低位で 7.6cm 以上、51cm 未満の部分に足がかりがない。 前枠、後枠と妻枠の高さの差が 15cm 以上あり、かつ床板から上さんまでの高さが 102cm 未満のものは最も高い上さんから 15cm 以下の高さに足がかりがない。 EN:足場がない範囲が 50 cm以上必要 組子間及び組子と支柱間の間隔は、85 mm以下→<u>65 mm以下</u> (参考) ASTM:組子間及び組子と支柱間の間隔は、60 mm以下 EN:組子間及び組子と支柱間の間隔は、65 mm以下 床板上面から 15cm の高さまでは堅固な構造<u>又はマットレスと前枠、後枠、妻枠とのすき間は 30 mm未満 (片側に寄せて測定)</u> (参考) ASTM:マットレスと前枠、後枠、妻枠とのすき間は 25mm 未満 (片側に寄せて測定) EN:マットレスと前枠、後枠、妻枠とのすき間は 30 mm未満 (片側に寄せて測定)
--	---	---

	1 0 乳幼児の指が挟まれにくい構造を有すること。 1 1 枠にネットを張っているものにあっては手足が挟まらない構造を有すること。<u>(手足を指に変更)</u> <u>1 2 前枠が可動式の場合は、子供を取り出す際に乳幼児が転がり落ちない構造であること</u>	スライド式の前枠の上下のさの両端と左右の妻枠支柱とのすき間は、5 mm 以下→<u>乳幼児の手足が届く範囲に、7mm 以上 12mm 未満の隙間がない。</u> (参考) ASTM:乳幼児の手足が届く範囲に 5.33mm 以上 9.53mm 未満の隙間がない。 EN:乳幼児の手足が届く範囲に、7mm 以上 12mm 未満の隙間がない。 枠にネットを張っているものにあっては、ネットの目は、直径 25mm の円板が通らない大きさ。→<u>直径 7mm のジグが通らない大きさ。</u> (参考) EN:枠にネットを張っているものにあっては、ネットの目は、直径 7mm のジグが通らない。 ASTM:メッシュの開口部は直径 6.3 mmのジグが通らない。 (ASTM F 406) <u>前枠上面の高さは、床板最上位で床板上面より 12.7cm 以上高い。</u> (参考) ASTM:前枠上面の高さは、床板最上位で床板上面より 12.7cm 以上高い。(ASTM F406)
--	--	--

	1 3 乳幼児用ベッドの柵に開口部を有するものにおいて、床板を下げた時に乳幼児の体がすり抜ける隙間ができないこと。 <u>1 4 乳幼児用ベッドの柵にスライド式の側面を有するものにおいて、柵を下げた際に乳幼児の体が挟まるのを防ぐ構造であること。</u> 1 5 乳幼児の衣服のひも等が引っ掛かりにくい構造を有すること。	床板を下げた時に収納スペースが生じない場合(収納部分がなくなる場合)を除き、開口部と床板の上面の間隔は、85mm 以下→<u>65 mm以下。</u> <u>柵を最も下げた状態で以下いずれかを満たすこと</u> <u>a)自動的にロックがかかる</u> <u>b)可動部下部の高さはマットレス上面より高い</u> <u>c)可動部下部と地面間に 223 mm以下のすき間ができない。</u> (参考) EN:柵を最も下げた状態で以下いずれかを満たすこと a)自動的にロックがかかる b)可動部下部の高さはマットレス上面より高い c)可動部下部と地面間に 223 mm以下のすき間ができない。 支柱の上端の形状は、乳幼児の衣服のひも等が引っ掛からないものであり、かつ、上さんから 15mm を超えて突き出していない。ただし、床板の上面から支柱の上端までの高さが 800 mm以上であるものにおいて、この限りでない。 <u>あるいは欧米いずれかの要件を満たす。</u> (参考) ASTM:端部から 76mm の範囲は突き出しが 1.5 mm未満もしくは外柵最上部から支柱先端が 400 mm以上。 EN:ボールチェーンが引っかからない。
--	--	--

		50 cm移動し自然に放して衝撃を加える。 (参考) ASTM : ・各妻枠の上さん中央部に 120N の荷重を水平方向に 9,000 回交互に加える。 ・各妻枠の上さん中央部に 120N の荷重を垂直方向に 9,000 回交互に加える。 ・下さん中央部に 7.6 cmの高さから 13.6kg の重りで 250 回連続して衝撃をかけた後、45.4kg の重りを 30 秒載せる ・組子を外し 355.8N の負荷をかける。 EN : ・中央と端にある組子及び弱そうな組子に 250N の力を水平に加える。 ・組子の上端から 200 mmの箇所 14 か所の内側及び外側に、2kg の重りを振り子の長さ 300 mmにつるし、90° に持ち上げ各々10 回衝撃を加える。 ・妻枠上さんの各端部の内側及び外側に、2kg の重りを振り子の長さ 300 mmにつるし、60° に持ち上げ各々5 回衝撃を加える。 ・上さん端部から 1/4 の箇所に 300N の荷重を垂直方向に 10 回かける。 ・床板中央に 20 kgの重りを載せ、妻枠上さん端部から 50 mmの位置に 100N の荷重を 2000 回交互に加える。縦横両方実施する。
--	--	---

	<u>1 8 乳幼児が就寝中に横から押されても転倒しない構造であること。</u> 1 9 柵にネット又は板を張っているものにあつては、ネット又は板は十分な強度があること。 <u>2 0 床板には薄い布団が挟み込まれる、もしくは乳幼児が挟まれるすきまがないこと。</u> <u>2 1 付属品は安全なものであること。</u>	<u>ベッド側面上端から 50 mmの箇所に 10kg の重りを取付、上端に 30N の力をかけ転倒しない。</u> (参考) EN:ベッド側面上端から 50 mmの箇所に 10kg の重りを取付、上端に 30N の力をかけ転倒しない。 直径 10 cmの円板当て板を用いて 200N の力を加え、ネット又は板を引っ張り又は押して確認する。<u>又は欧州の要件を満たす。</u> (参考) EN:250N の力を水平方向外向きに 3 回かける。(柔軟な部材のみ) <u>欧米いずれかの要件をみたす。</u> (参考) ASTM:140 mm×84 mmのプルーブが通過しない EN：すのこ間の幅は 60 mm未満 <u>他の安全基準 (ISO、SG、ST、ASTM 等) があるものはその要件を満たす。</u> (参考) ASTM、EN：他の安全基準があるものはその要件を満たす。 ASTM:保護カバー (木材等を口で噛むことを保護するため
--	---	--

	<u>2 2 折り畳み式のものとは意図せず折り畳まれない構造であること。</u>	のもの) を使用しているものは容易に外れない。 <u>欧米いずれかの要件をみたす。</u> (参考) ASTM:意図せず折り畳まれないようにロック装置もしくは設計上の工夫が必要 EN: ロック装置 (50N の操作力 or ダブルアクション) が必要。内側に折りたたまれるものは2種類必要。
--	---	--